

農村RMO超基礎編

JTB総合研究所 地域交流共創部 橋本 惇

本日の流れ

1

農村RMOをざっくり理解する

2

「こんなとき、どうする？」を一緒に考える

3

農村RMOでできることを考える

ちょっとだけ自己紹介…

JTB総合研究所
地域交流共創部

あつし
橋本 惇

大学では温泉地と関わりながら、ある農村地域をフィールドに地域づくりを研究。2020年にJTB総合研究所に入社し、農山漁村地域を中心に様々な事業に関わる。
年間100湯の温泉に入ることをライフワークとして、47都道府県・8の国と地域で、917湯を湯破(2025/9/4現在)。

詳しいプロフィールは当社HPをご覧ください➡

農村地域活性化の参考資料



画像の出典:北陸農政局



画像の出典:農林水産省

農村RMOをざっくり理解する



- 農村RMOは、農村型地域運営組織のことで、地域運営組織の一形態です。

手引きでの記載内容	説明
(農村地域において)	農村地域の課題に適した組織を目指す
複数の集落の機能を補完して	複数集落で活動する
農用地保全活動や 農業を核とした経済活動と併せて	「農」に関わる活動をする
生活支援等地域コミュニティの維持に 資する取組を行う組織	生活支援や、地域資源活用もする
	地域コミュニティの維持に資することを目指す

- 農村RMOは集落の機能を補完するため、複数集落で活動します。
- [旧]小学校区単位の地域づくりが行われている場合は、範囲を合わせることが効果的です。



市町村



複数集落 (地区)

集落



複数集落（市町村でも集落でもなく）だと

- 一定の活動規模になりやすい
（組織を運営する人材や、活動の参加者など）
- 一人ひとりに目が行き届く



さらに

[旧]小学校区の場合…

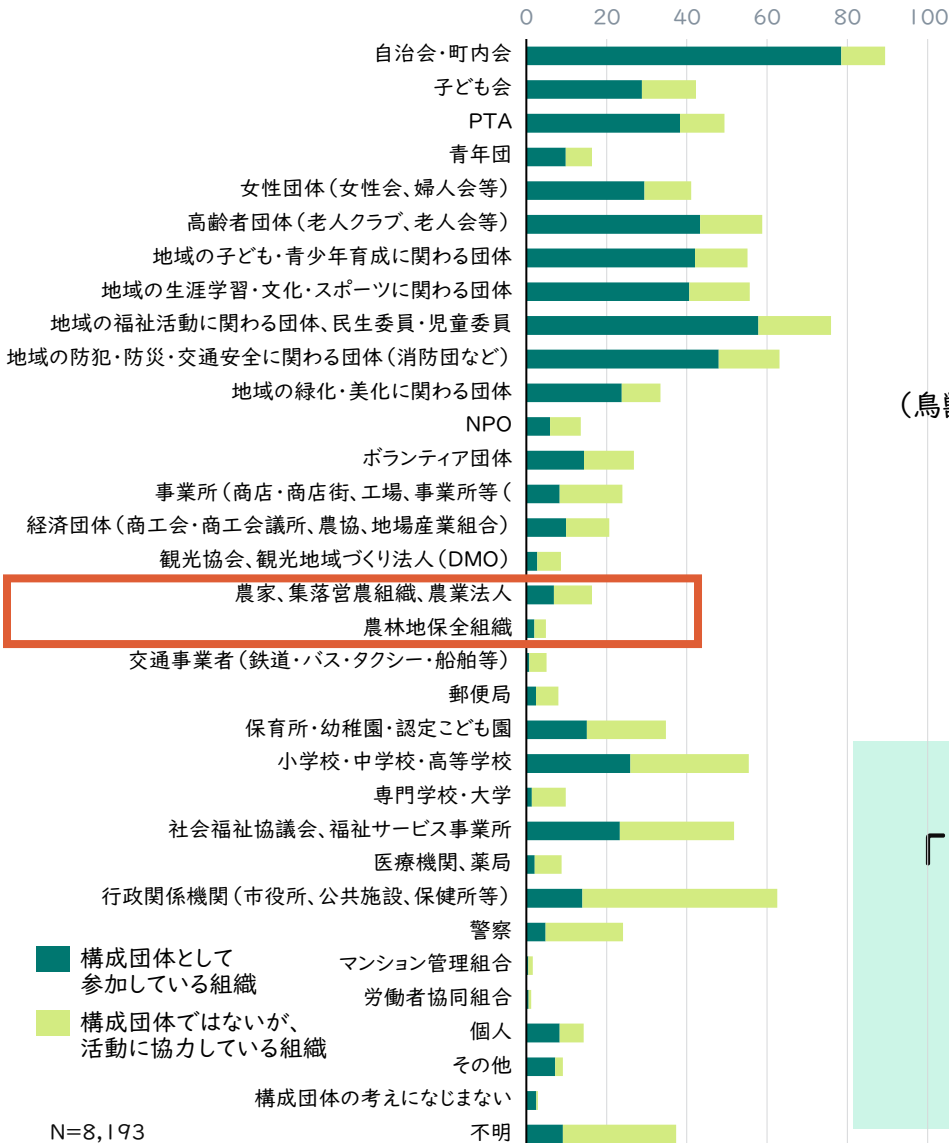
- 既存の地域づくり系団体と連携しやすい
- 活動拠点を得やすい（地区公民館など）
- 地域的にまとまりがある

[旧]小学校区でなければいけない、というわけではないが
地域運営組織がすでにある場合などは、範囲を重ねたほうが効果的

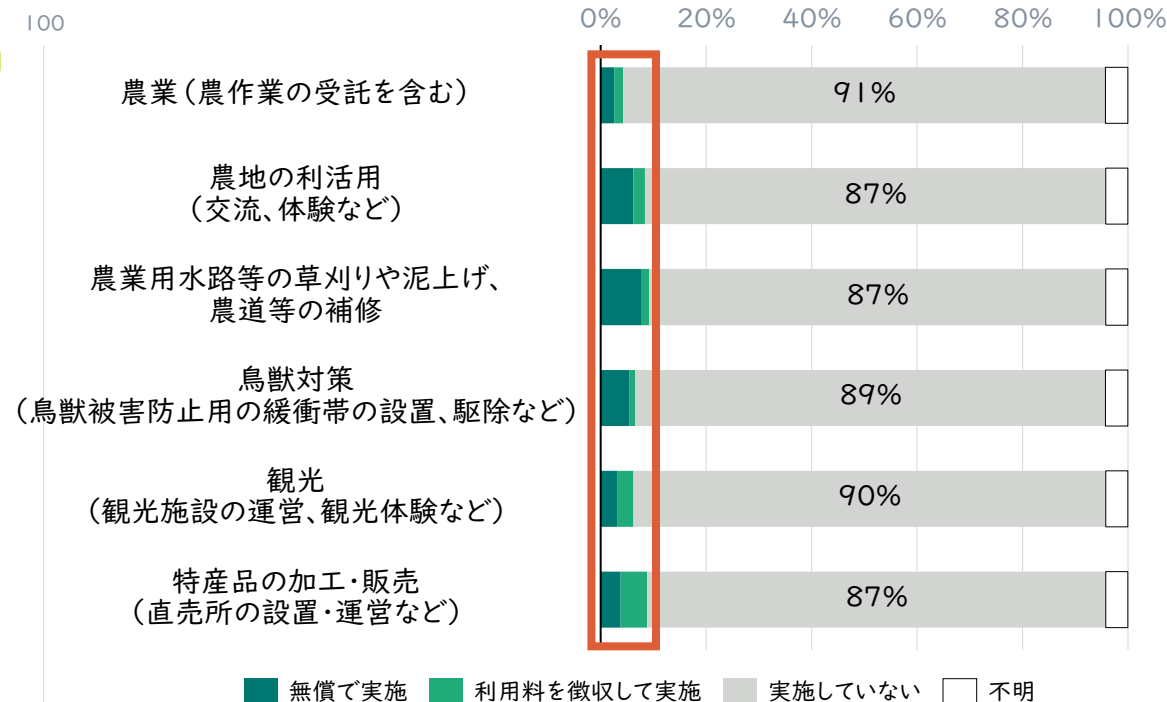
なぜ、「農村型」なのか

手引きp.4

■地域運営組織の構成団体



■活動内容(農業関係)



「地域運営組織」の多くでは
「農」にまつわる活動が行われていない

しかし、農村地域の暮らしでは
「農」の維持が不可欠

- 農村集落で「農」を維持できなくなると、住み続けられなくなるおそれがあります。
- 「農」を維持するために、農家・非農家が協力することが欠かせません。



農業をきっかけ
としたコミュニティ



鳥獣害の増加



鳥獣害対策



景観



災害リスク上昇



景観作物の栽培等、
農地の維持

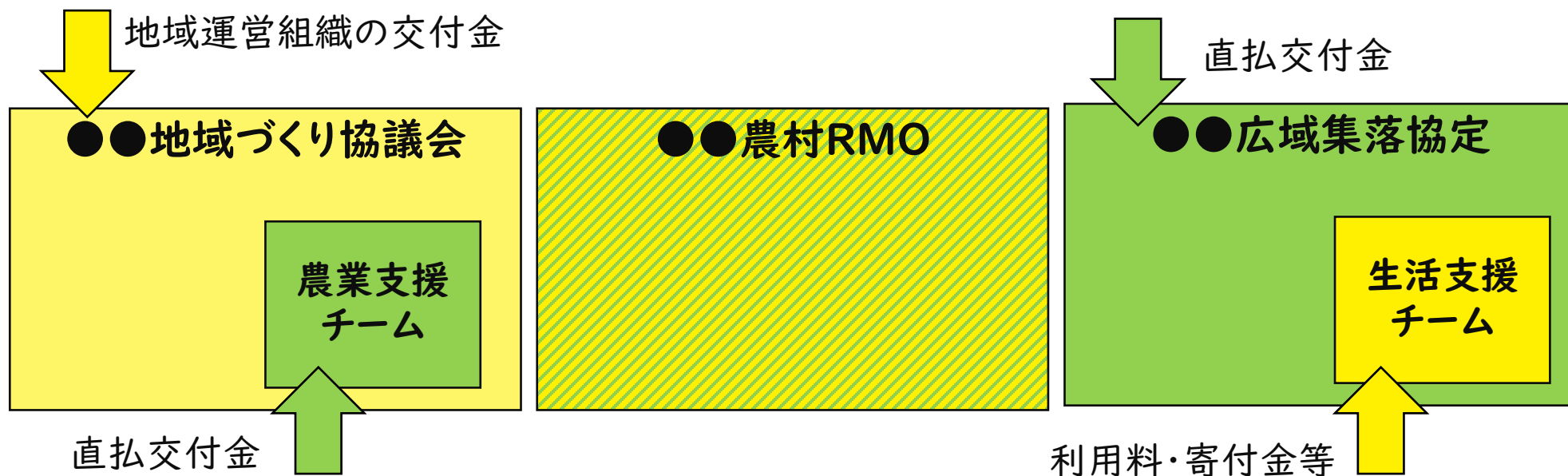


景観や治安の悪化



放牧等による新たな
活用（粗放的管理）

- 農村RMOという組織を別で作る必要はなく、様々な組織体制がみられます。
- これまでの活動状況に応じて、最も効果的な体制で取り組んでください。

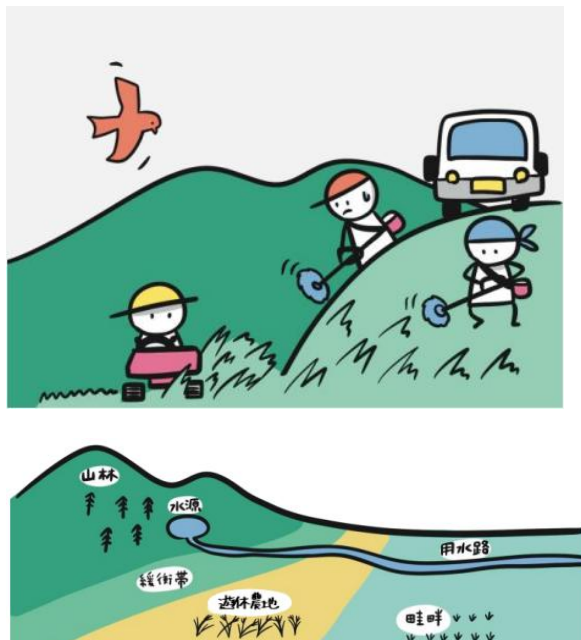


「農村RMO」という新たな組織を作る必要はありません。
どこで“農村地域づくり”をやっても良いですが
お財布の管理には注意が必要です。

- 農村RMOの活動は次の3本柱とされています。

農用地保全

農用地や農業用施設
などを適切に
保全・管理する活動



生活支援

地域住民の
生活に関する支援

移動支援



買物支援



子育て支援



高齢者支援



地域資源活用

有形無形の地域資源
を活かし収益を生み
出す活動

加工品



販売



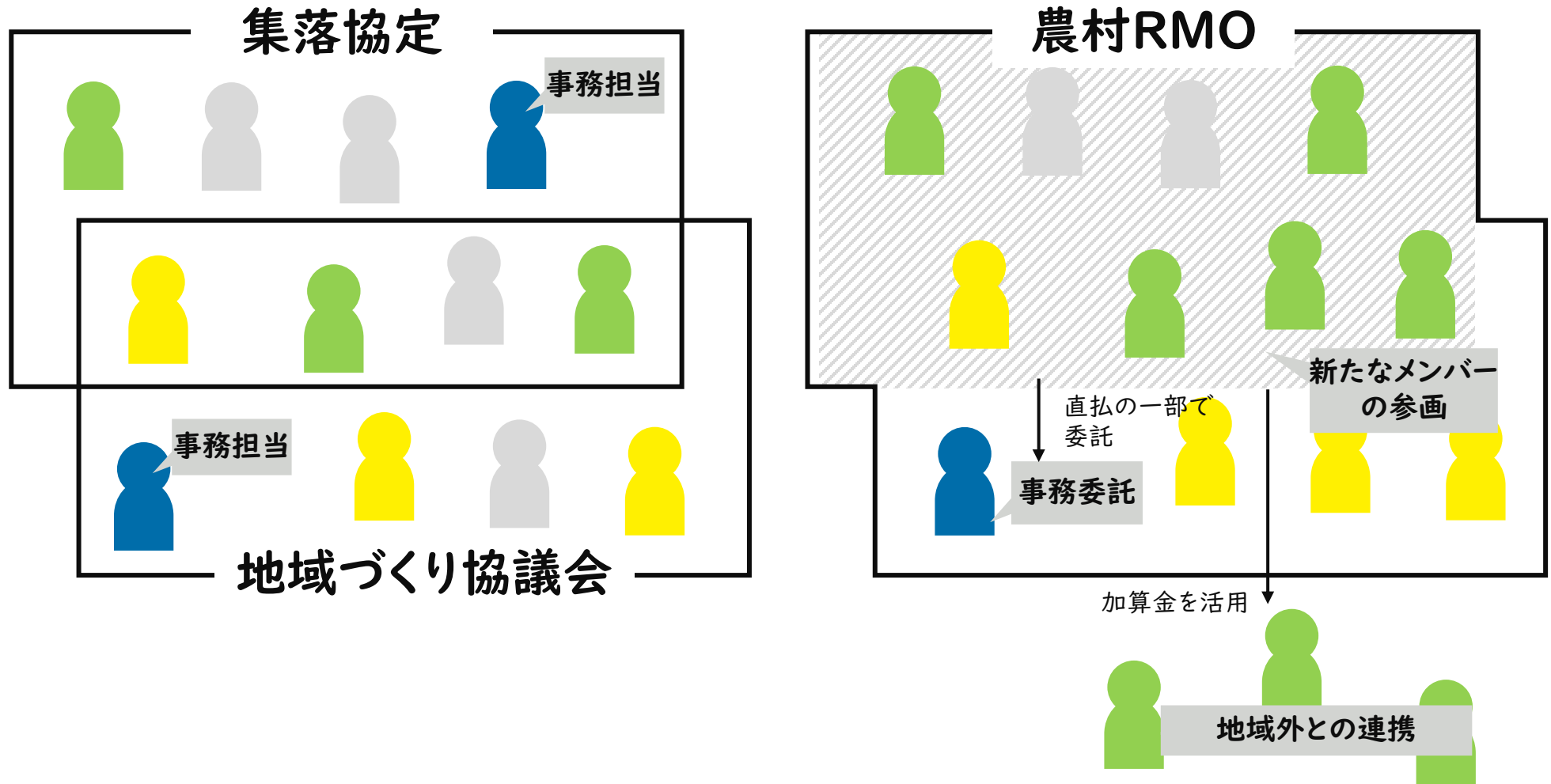
体験交流



イベント



- 既に地域内の団体が主体となって行っている活動も、農村RMOが支援することでより継続しやすくなる場合があります。





「こんなとき、どうする？」を一緒に考える

このあとすること

- 「こんなとき、どうする？」という質問をします。
- A/B (またはその他) を選び、その理由をグループ内で共有してください。
- どちらが正解というわけではありません。
「自分の地域だったら、こうしてみたほうが良さそうだな」と思うものをお選びください。

その前に、まずチェックインを行います。

1. 地域 (どんな地域か、一言で紹介してください)
2. ご所属・お名前
3. 今の気持ち を1人1分程度でお話してください。

「農村RMO」というものがあるらしい・・・でも周りは・・・

あなたは、地域で農業の維持が難しくなっている現状を打破し、地域を盛り上げるためには「農村RMO」が必要だと考えています。でも、なかなか周りには伝わりません。

【A】

農村RMOについて
なるべくわかりやすく
説明する

【B】

まずは、みんなの
考えを聞いてみる

話を聞いてみた！ でも、暗い話ばかり・・・

「このままでは良くない」と感じている人は意外と多かった。
しかし、悲観的な意見ばかりで前に進みそうにない……。

【A】

前向きな話をしてくれる
人が見つかるまで
探し続ける

【B】

ワークショップを
開いて、色々な人の
話を聞いてみよう

「地域の農産物や加工品を持ち寄ってマルシェを開いてみたい」
という人が2人現れた！
自分を入れて3人では盛り上がらないような気がするが……。

【A】

数人の仲間を集めて
ごく簡単にやってみる

【B】

補助金とかで
なんとかできないか、
行政に相談してみる

やってみた！でも思い通りの結果にはならず・・・

自分と仲間2人で小さく始めたマルシェは、やっぱり盛り上がらなかった……。せっかく協力してくれた2人にも申し訳ない……。

【A】

今回はうまくいかなかったから、別のことにチャレンジしてみる

【B】

やり方を変えて、もう一度チャレンジしてみる

ちょっとずつ成果が出てきた気がするけど、この後どうする？

マルシェの出店者も買物客も、少しずつ増えてきた。
地域の人たちの反応も、徐々に前向きになってきたような
気がする。今ではマルシェの出店メンバーが7人に増えて
仲良くやっている。ところで農村RMOの話もあったような……。

【A】

地域のリーダー格の人と、
今後の展開を相談する

【B】

同じ仲間と、
次のことに挑戦する

7人の思いはだいたい同じ。
でも他の住民はどう考えているんだろう……？

【A】

ワークショップや調査を
やって、住民の意見を広く
集める

【B】

自分達の活動ビジョンを
つくり、地域の話し合いで
OKをもらう

ワークショップを開いてみたが、全然人が来ない！

ワークショップ／理事会では全然意見が出ず
散々な結果に……。さすがに7人の仲間たちも意気消沈……。

【A】

やっぱり無関心な
人たちの相手をして
ムダかな……？

【B】

工夫次第で、なんとか意
見を聞き出せない
ものか……

活動をはじめてみたが、思ったよりも大変……

紆余曲折を経て、生活支援の有償ボラもはじめることになった！
しかし、ボランティアも集まらなければ、利用者も集まらない……。

【A】

思ったよりも大変だった
から、別のやり方を
考えてみよう

【B】

せっかくの事業だから
何とかして
続けなくては！

農村RMOモデル形成支援事業を活用して
組織としての基盤が整備できたし、色々な実証ができた。
でも、交付金は来年度で切れてしまう……。

【A】

100%自力で稼がないと
いけないし、稼いだ分で
やれることをやる

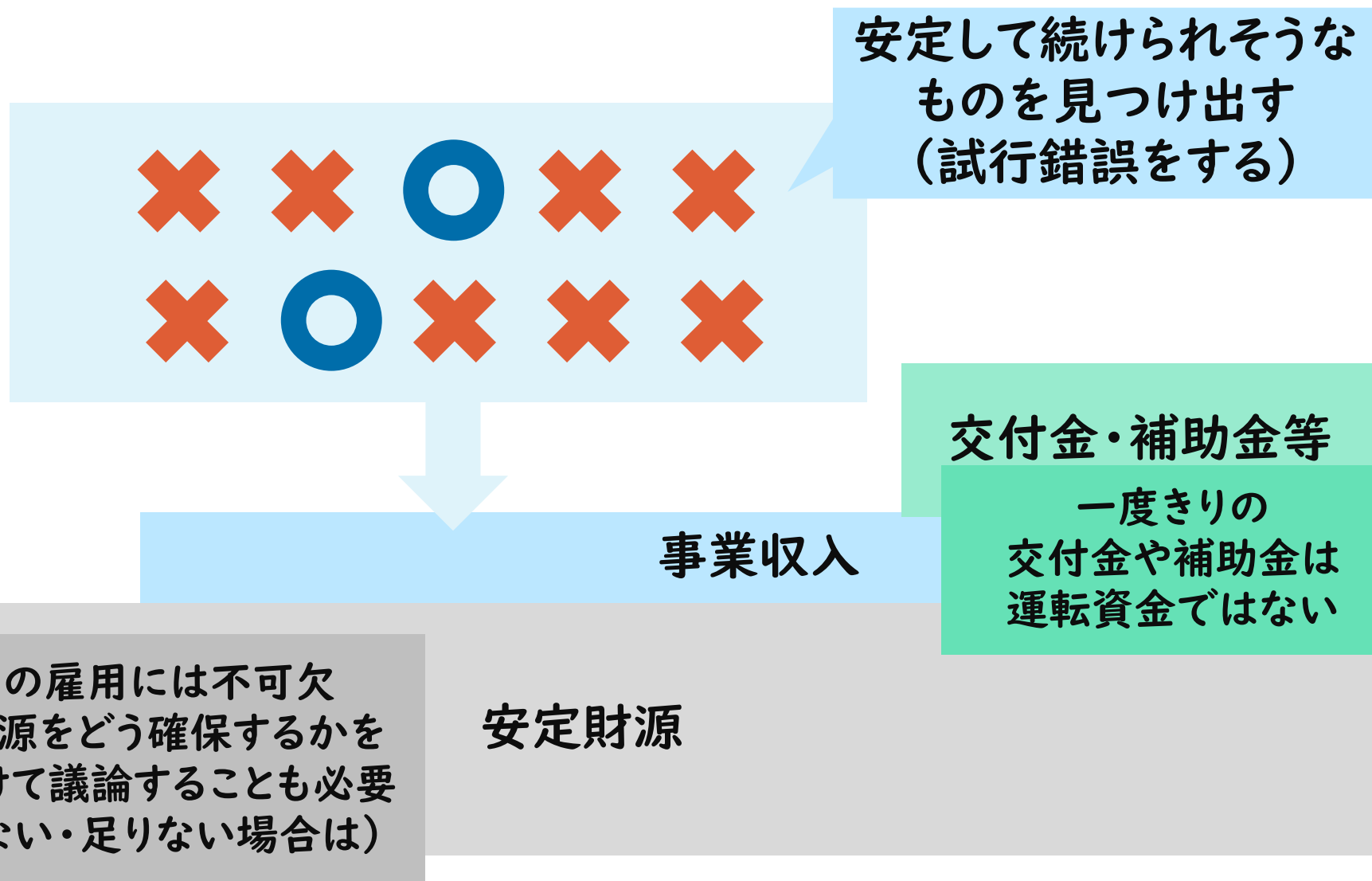
【B】

活動のベースを
どの水準で維持できるか
整理してみる

A scenic view of a rural landscape. In the foreground, a small white truck is parked on a road. The middle ground features terraced rice fields with green crops, a small red-roofed building, and a large tree. The background shows a body of water and distant hills under a clear sky.

農村RMOでできることを考える

- 農村RMO形成支援事業では、3か年かけて「新規事業」を作り出していくことが求められます。
- 3年間の間で取り組んだこと全てを続ける必要はありませんが、続けられるものを見極める必要があります。



- 3年間の交付金は、ビジョン策定（※未策定の場合）と、「初期投資」を中心に活用します。

農村RMOモデル形成支援事業実施期間

定着期

事業の計画があることで、
必要な設備の導入（リース）や
調査・実証などを効果的にできる

事業収入を補填

ビジョンがあることで
「今後も続けていく意思」「地域での
必要性」等を行政に訴えかけられる

安定財源のあり方検討
（のための、調査・ビジョン策定）



持続的に
事業収入を得る

安定財源確保
→安定した運営

- 安定した収入が見込めるものは、協議会の運転資金（人件費・光熱費・賃料・・・）にあてられます。

直払交付金の一部

事務受託



自治体・国から

指定管理



会費・安定した売上

会費（住民・地域外）
寄付金（一口●円）



共同活動の一部



受託

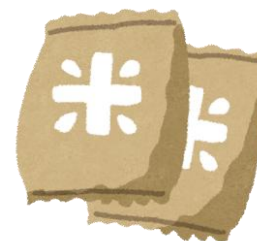


交付金



*資金だけでなく
人材の派遣も効果的です
（集落支援員等）

農産物の
直接販売



切手販売
（※届出が必要）



- 活動場所があることで、住民との接点を持ちやすくなります。
- 遊休施設の活用や、すでに使われている施設の機能強化の観点からも、地区で使えそうな拠点を農村RMOで使わせてもらえないか、行政や所有者・管理者に相談してみましょう。

農村RMOの
存在を認知される

住民（+地区外の人）
が集まり、交流する

活動に協力してもらう・
新たなアイデアが生まれる



活動場所確保の例

- 既に他の組織が使っている施設があれば、同じ場所に拠点を置くことで組織間の連携や住民とのコミュニケーションが期待できます。
- 地域の遊休施設を活用する場合は、所有者や行政と相談し、条件を協議しましょう。

農業倉庫を活用

釜ヶ渚みらい協議会（富山県立山町）

使われなくなっていた倉庫を、農協との協議により、改装することの了解を得て、使用する光熱費等の負担で借り受けることができました。改装は地域の工務店や住民の手で行いました。地域の手で飲食や地域の特産品の販売ができるよう改装し、地域内外の人が集まる拠点になっています。



写真提供：釜ヶ渚みらい協議会

既存福祉施設を活用

能登島地域づくり協議会（石川県七尾市）

地域の活動を行う団体の事務所がバラバラにありましたが、元々拠点であった旧町役場が老朽化により解体・移転することを契機として、コミュニティセンター（旧総合健康センター）に集約されました。

重複する事業はないか、協力し合って取り組めることはないかといった話し合いが自然と生まれ、広報誌やイベント等が一本化されました。

コミュニティセンターには住民も訪れるため、住民と地域運営組織のスタッフとのコミュニケーションも生まれています。



写真提供：能登島地域づくり協議会

収益事業を続けるために（加工品づくりの例）

- 市場ニーズと地域でできることが重なり、持続的に事業ができるものを形にするため、専門家による支援が効果的です。
- 市町村や伴走支援者などに専門家を紹介してもらいましょう。

原材料の確保



作りやすいもの



ニーズに応える



販路をつくる

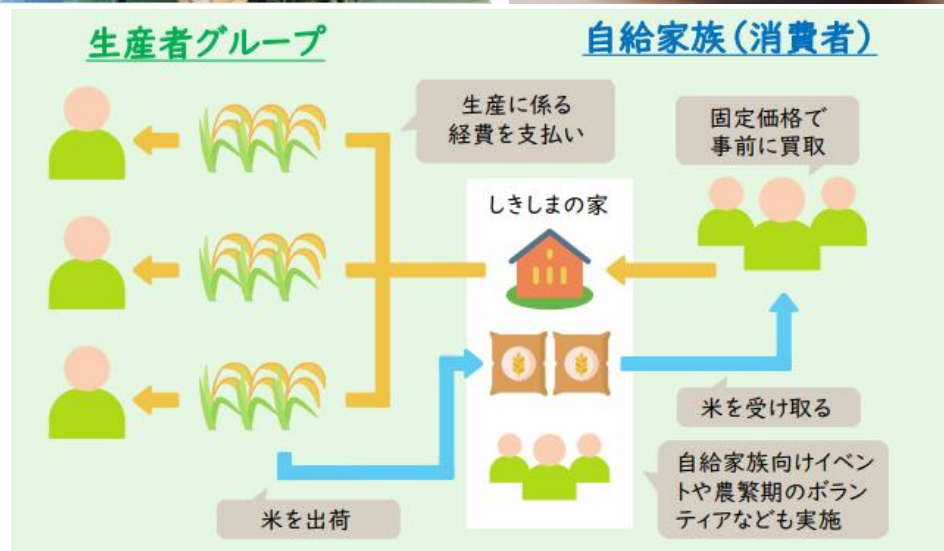


専門家に相談する（ために、伴走支援者に相談する）のが効果的

地域資源を活用した様々な事業の例

- 地域資源を活用した事業には様々なものがあります。
- 地域内や、販路がすでにあるところ（近隣の店舗）、関わりがある人たち（縁のある人や地域のファン）をターゲットにすると効果的です。また、事業活動を通して関係人口の創出も期待できます。

加工・販売



*しきしまの家運営協議会 (<https://shikishima.org/family>) 資料をもとに作成

体験・交流



写真提供: ①②鉦打ふるさとづくり協議会、③株式会社秋津野、④東米良1000年協議会

「農村RMO形成推進の手引き」のご紹介

- 令和6年度に「みんなでつくろう農村地域の未来」を制作し、農林水産省・JTBのHPで公開しています。
- ぜひご活用頂き、ご意見・ご感想をお寄せ下さい！

<構成>

- 1 立上期から定着期までのポイント
- 2 活動事例（プロセス事例）の紹介
- 3 地域づくりに関わる方が知っておきたいこと

<ポイント>

- 活動のプロセスを読み解き、課題への向き合い方の事例を提示
- 地域の具体的な取組を豊富に紹介
- リンク集により、支援施策等の情報も整理



ダウンロードはこちらから

<https://www.maff.go.jp/j/nousin/nrmo/event.html>



立上期から定着期までのポイント

01

立上期から定着期までのポイント

形成期

4 活動をやってみる

- まずできることから、やってみます。
- 活動の内容に応じて、必要な人材を確保しましょう。
- 活動を続けながら、仲間を集めていきます。
- メディアやSNSなどで成果を見せることも、仲間集めにつながります。
- 専門家などの支援を得ることで、より効果的な活動につながります。

まずやってみる

数名で活動を企画します。なるべくお金と手間がかからないこと、すぐにできること、楽しく取り組みそうなものからやってみましょう。

Q 「やりたい人」の周りは何をしたらいですか？

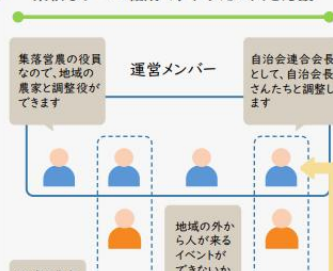
言い出しっぱなしに任せないのも大事

若い方がアイデアを持っても、なかなか賛同が得られない場合があります。組織の役員同士で説得し、応援ムードを作ることがプラスになります。

Q 「初めて」が失敗しないか心配です。

これはやってみることでわかります

柔軟なチーム編成で、やりたい人を応援



各場面における課題等乗り越えるためのヒントやポイントを以下の「解法（ヒント等）」、「留意点」、「ステップアップ」により紹介しています。

解法（ヒント等）

課題や悩みに対する
乗り越え方のヒント等

留意点

注意すべきことや、
失敗談に基づくポイント

ステップアップ

レベルアップのための
具体的な手法等を紹介

Q イベントに参加者を集めるにはどうしたらいいですか？

全戸配布+個別声掛け

地域の広報誌等にあわせて、イベントの案内を全戸に配布することが考えられます。チラシを配るだけでなく、お年寄りの見守りに合わせて声をかけるなど、個別の声掛けが特に効果的です。知り合いからの紹介によって、徐々に参加する人が増えていきます。

Q 一緒に取組を運営する仲間をどうやって集められますか？

「ちょっと手伝って！」は仲間集めのキーワード

地域の知り合いに「この日、イベントを手伝って！」と言うと、「この時間帯だけなら行くよ」「今日は空いてないけどまた今度ね」と、良い反応が得られる場合があります。会議に来てほしいというよりも、一緒に作り上げている実感があがり、自然体で関われるようです。

Q おしゃれなチラシで目を引こう

専用のソフトがなくても、豊富なテンプレートとイラスト素材を組み合わせ、おしゃれなチラシやポスターを作れるWebサービスがありますので探してみましょう。

*遠川地区まちづくり協議会（富山県氷見市）

専門家などに助けてもらう

活動の効果を高めたり、最適な手順で進めるには、専門家に頼ることも検討しましょう。

専門家の例

まず相談
全体的な支援（つなぎ役も含む）

- 都道府県・市町村
- 伴走支援者（コンサルタント、専門家など）
- 地域外とのツテが豊富な人や団体

紹介してもらう

地域資源活用

- 商工会（経営指導等）
- 料理人・加工業者
- デザイナー（パッケージ・Web等）

農用地保全

- 農業機械等の製造会社
- 栽培の専門家（普及指導員、他地域の実践者など）
- 狩猟免許の講師

テーマ共通

- 他地域での実践者
- 研究者（大学・高専など）

生活支援

- 社会福祉協議会
- 生活支援コーディネーター
- 交通事業者

振り返り、前向きに次へつなげる

活動しながら、予想通りだった点・予想よりもよかった点・よくなかった点などを振り返ります。反省点が多くても、やり方を変えてみる、予想自体を修正するなど、前向きに次につなげましょう。

Q あまりうまくいかなかった場合も、どうやって次につなげられますか？

その場で反省会

イベントの後に打ち上げをすると、自然と振り返りができます。「また来年も頑張ろう」という前向きな気持ちになります。

成果を「見せる」ことも意識する

成果が出はじめると、住民が徐々に活動に興味を示したり、好意的な反応になります。

- 新しいモノができた
- 人が集まってくるようになった
- メディアなどに取り上げられた
- 生活が便利になった

Q どうしたら地域の人の賛同が得られますか？

取材されると風向きが変わる

はじめは静観する人が多くても、メディアに掲載されたことで「頑張っているね」「すごいね」と声をかけてもらえるようになります。

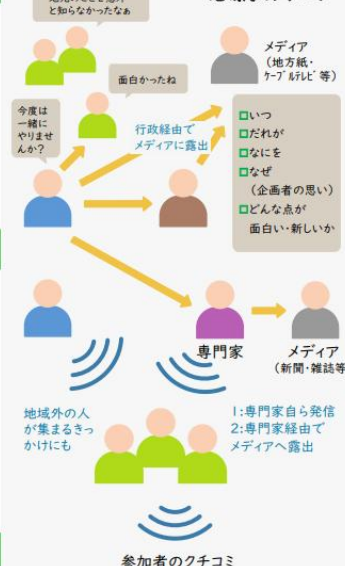
楽しむのが、続ける秘訣！

運営にかかわる人たちが楽しくやれることが、活動を続けていく秘訣です。みんながやりたいことを提案でき、実現できる状態を保ちましょう。

Q 無理して続けている活動をどうしたらいいでしょうか？

コロナ禍で途絶えていた盆踊りですが、準備が大きな割に踊る人が少ないので、やめてしまいましたが、むしろ、ステージの周りで踊らうことに意味があると考え、別のイベントを行いました。

地域内のクチコミ



図や写真で詳しく説明

SNSで発信してみよう

SNSでイベント等を案内することで、これまでよりも若い世代や、地域外からの参加が増える場合があります。活動に参加した人にフォロー・拡散してもらうなど、少しずつオンラインの仲間を増やしていきましょう。

プロセス事例編

- プロセス事例編では、農村RMO3地域を深掘って紹介しています。
- 活動の転機となったプロセスに着目し、地域内外の人がどのように動いたかを時系列でたどります。

(組織体制・取組内容・タイムライン)
地域の概要

02 活動事例 (プロセス事例) の紹介

都市部とつながる「関係自治」で人口減少を乗り越える

ししまの家運営協議会 (豊前県豊前市)

活動範囲: 小学校区 / 人口: 880人* / 世帯数: 322世帯*

*2024年4月現在 / 出典: 住民基本台帳・数島自治会

活動のタイムライン

2009年「日本再発見」若者よ田舎を目指そうプロジェクトで移住者呼び込みメディアの注目を集めたことで、将来ビジョン策定につながりました。

2015年 ししまときめきプラン2015 地域のビジョン策定に住民がかわるようになりました。アイデアを都部会との活動に整理し、住民がどれに参加するか、明確になりました。

2019年 若者若者組合で「地域まるっと中間管理方式」と「自給家族」が地産地消の助産を受けたが、集落農業の事業を持続させるための新たな仕組みを導入しました。

2020年 ししまときめきプラン2020 超高齢化社会を受けて、「支え合い社会を作っていく」という方針に転換しました。

2022年 ししまの家のオープン 住民の「たまらぬがけい」という意見から、行政に頼らず拠点を整備

2023年 農村RMOモデル形成支援 これまでの活動をより持続的に続けるため、様々な活動に取り組んでいます。

組織体制

関係人口とつながるテーマ別関係人口プラットフォーム

ししまの家 支え合いプロジェクト事務局 農地保全プロジェクト事務局 農村レストラン運営委員会

地域課題を協議し、方針を定め、行政と協働して実現

市内会館、町内会、農地と山村の交流をコーディネート

おいてんさんセンター 豊前市・旭支所

主な取組内容

- ししま支え合いシステムの策定
- 高齢者移動支援
- 数島地区全体で、農地保全体制の見直し
- 草刈りロボット開発実証
- ししまの家自給家族の実証
- 「みんなのたまらぬがけい」ししまの家の活用
- 高齢者が生産する野菜の配送・加工支援

元気野菜プロジェクト

出荷が負担となる高齢の生産者が野菜の生産を続けられるよう、地域の生産者団体と、移動支援を行う市内の民間団体が連携し、持続的に取り組める仕組みづくりの実証に取り組んでいます。

地産電力会社の加入促進

豊前市の中山間地域の課題解決を目的とした新電力会社で、加入率に応じた補助金が地域に還元されます。切り替えを促し、地域の活動資金を確保しています。

MYタワー

「ししま 暮らしの作法」の共有

数島自治会

ししまの家運営協議会

地域のビジョン

豊かな自然、温かい地域のさなを守り 人々が生き生きと暮らす山里 ししま

10年後の目指す姿

- ① 空き家、農地、山林が有効に活用され、多くのU1ターン者とともに豊かで持続可能な暮らしが営まれています。
- ② 都市部の企業や市民にも支えられ、手入れされた田畑や山林、清流が日本の田舎を代表する風景になっています。
- ③ お年寄りも地域の担い手として元気に働き、子供たちが自然の中で生き生きと遊び、遊んでいます。
- ④ 歴史や文化財、伝統的な行事が受け継がれ、誇りが盛大に行われています。
- ⑤ 支え合いを大切に、多少は不便でも安くて安心して暮らせる社会基盤や仕組みの整った地域になっています。

過渡期ストップにチャレンジ

定住促進 環境保全 福祉健康 次世代育成 安心安全

分科委員会重点プロジェクト

- 1 支え合い社会創成プロジェクト: 子どもから高齢者までが支え合い定住力創出
- 2 自給家族による農地保全プロジェクト: 持続的な農地の営みを実現する集落農業の体制整備
- 3 未来への機軸形成プロジェクト: 社会変化に対応した組織、備蓄、暮らしの改革

主な収入源

- 「自給家族」による売上
- 農村RMOモデル形成支援
- 豊前市のソーシャル・インパクト・ボンド (SIB)*
- 地域の新電力切り替えによる奨励金

農地RMO以外の施策活用

- 最速土地利用総合対策
- 中山間地域等直接支払交付金
- 多面的機能支払交付金

*SIBは社会的な成果を目標に活動した民間団体の手法。農地地区では、地域の生活支援活動がもたらす介護予防効果の計算に基づき、活動費の支援を受けています。

キーパーソンインタビュー

ししまの家運営協議会 幹事 鈴木氏

「ししま暮らしの作法」では景観を大切にされていますね。

山村の価値「美しい農村風景」です。家の周りが農地という、住民の気持ちも後ろ向きになってしまっているのではありません。そんな場所には移住者や関係人口にも選ばれません。住民が自営を持って暮らしている地域に育まれるでしょう。また、一度荒廃した農地は元に戻りません。農地を保全することは、次世代に選択を残すことです。

景観や思いやり、多くの関係人口を引き付けました。

2009年のプロジェクトで、地域の「めがけい」が、「ししま」の都市部から移住した若者が一生懸命に取り組んでいる姿を目にしました。そこで、今までの取り組みが、それによっての「めがけい」ともつながっているように、年間100年あたり支え合い活動が行われています。顔を合わせ、食事をしながら話せることで、住民は人々に手伝わなくても活動が持たせてくれます。また、米を取りに来た自給家族の方、そうした金額を返すことで「自分ごと」でできることはいかにと手を挙げてくれます。

「地域の魅力」「将来のビジョン」などを繰り返し語るうちに、自信がついてきて本当に実現できそうだと、自信が持てました。

景観や農業などの価値が再確認され、それを守ることが住民の誇りや、移住希望者が感じる魅力につながりました。

ししまの家運営協議会

ビジョン・収入源・活用している施策

形成期

定 住 促進

「自給家族」と、地域まるっと中間管理方式

集落ごとの営農組織や農用地保全組織は、人口減少と高齢化を受けて活動の継続が懸念されていました。しかし、行政の広域連携のアドバイスで一歩を踏み出しました。

「押井若者組合が、専門家のアドバイスを受けて「地域まるっと中間管理方式」による農地保全組織を回した。成功の要因は「自給家族」に取り組み、この成功を周辺集落にも展開することになりました。単独集落での取組が困難でも、広域で連携することで実現しようと、話し合いが続けられました。

*宮城県農地と農地保全組織の一つの法人として、地域全体で農業を営むという組織

*https://zochinoshiki.or.jp/index/sib/index_archive04.pdf

定着期

住民も自給家族も集まる「ししまの家」

関係人口との関わりが増えていく一方で、地域では「子ども園の駐車場が子育て世代の情報交換の場になっている」という意見が出てきた。また、お茶が飲める場所という意見からカフェ営業がはじまり、地域の人口と来客を取りに来た自給家族が交流できるようになりました。

ししまときめきプラン2020を策定する際の話し合いで、「地域のたまらぬがけい」という意見が出ました。関係人口の力も借りながらデザインを考えるなど、自分たちの手で作ったことで愛着も生まれました。さらに、お茶が飲める場所という意見からカフェ営業がはじまり、地域の人口と来客を取りに来た自給家族が交流できるようになりました。

豊前市旭支所が「わくわく事業」で、改修に伴う資材(間伐材)などの購入を支援しました。外部からは、クラウドファンディングやDIYなどで、ししまの家の整備の協力を受けています。

目に見る拠点ができて 住民同士・都市住民との交流が活発化

専門家に頼ることで現状を打開 地区全体で農地を保全するきっかけに

- ・地域のメリットにつながることで、全体の利益になることなど、具体的な情報を手に示したことで、合意につながりました。
- ・支援制度や、課題解決の手法などは、市内の専門家に相談したことで、新しい取組が実現しました。
- ・まぜーつの集落が取組を始めたことで、2集落がまとまるきっかけになりました。なお、押井若者組合が「自給家族」ノウハウは、近隣集落や他地区にも広がっています。

・地域の中でゆっくり話せる場所ができたことで、女性や高齢者なども集まり、生活のことなどを話せる場が生まれました。

・地域外からの来訪者は「自給家族」を通して地域に関心を持った方が多く、周りや園子などの話があると「何とかならないか」というような支援のマッチングにつながりました。

・事務局スタッフがカフェの運営も行っていることで、これらのマッチングや安心して話せる場づくりが実現しています。

キーパーソンインタビュー

トモ



「地域の魅力」「将来のビジョン」などを繰り返し語るうちに、自信がついてきて本当に実現できそうだと、自信が持てました。

景観や農業などの価値が再確認され、それを守ることが住民の誇りや、移住希望者が感じる魅力につながりました。

